

第1学年 国語科学習指導案

2組 計27人（男子12人，女子15人）

指導者 田之上 貴文

1 単元 くらべて よもう （教材「じどう車くらべ」光村1年下）

2 単元の目標

乗り物の「しごと」と「つくり」の関係を考えながら内容の大体を読み、文章の中の大事な言葉や文を書き抜いたり、簡単な構成を考え、つながりのある文を書いたりすることができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	B書くこと	C読むこと	言語についての知識・理解・技能
自動車クイズ大会に向けて、自動車の「しごと」や「つくり」を調べるために、教材文や絵本、図鑑を読もうとしている。	好きな自動車について説明する文章の簡単な構成を考え、つながりのある文を書くことができる。 【(1)イウ】	自動車の「しごと」と「つくり」の関係を考えながら内容の大体を読み、文章の中の大事な言葉や文を書き抜くことができる。 【(1)イエ】	片仮名で書く語を長音，拗音，促音に注意して，正しく読んだり，書いたりすることができる。 【(1)イ(エ)】

4 言語活動 書くこと「ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書く言語活動」

5 単元について

(1) 単元の価値

子どもたちは，これまでに挿絵と文章を照らし合わせながら書かれていることの大体を読む活動をしてきている。また，説明文の基本的な構成である「問い」と「答え」の関係を基に，文末表現に注意して問いの文と答えの文を関係ながら読むことができるようになってきている。

そこで，本単元ではこれまでの学習を生かし，「問い」と「答え」の関係に注意しながら自動車の「しごと」と「つくり」をまとめることで，事柄の順序に沿って内容の大体を読み取ることができるようにする。また，答えの部分の書き方を使ってクイズ文を書くことで，「しごと」と「つくり」の事柄の順序に沿って書くことができるようにする。これらの力を付けるために，「B書くこと」の言語活動例「ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと」として，自動車クイズ大会に取り組むことができるようにする。自動車クイズ大会を位置付けることで，子どもが目的をもって自動車の仕組みなどについて説明した本や文章を読んだり，自分の好きな自動車の「しごと」や「つくり」などの事柄を順序に沿って書いたりする学習に取り組むことができると考える。

教材「じどう車くらべ」は，子どもたちに身近な自動車が題材となっているため，興味・関心をもって読み進めて行くことができる教材である。本教材は，4つの意味段落からなり，第1段落で話題と2つの問題提示，第2～4段落で3種類の自動車の「しごと」と「つくり」について説明している。そのため，子どもたちが事柄の順序を考えながら読み進めるのに適した教材と言える。

本単元で子どもたちは，「問い」に対する「答え」の関係に注意しながら，それぞれの自動車の説明について内容の大体を読み取る力を身に付けることができる。そして，繰り返し出てくる接続語や文末表現に注目することで，説明文の基本的な構成や文型を理解することができるようになる。また，自動車クイズづくりに取り組むことで，「しごと」と「つくり」の簡単な組み立てや接続語を用いてつながりのある説明文を書くことができるようになると思う。

ここでの学習は，特徴や違いを考えながら内容の大体を読み取る教材「どうぶつの赤ちゃん」の学習へとつながっていく。

(2) 子どもの実態（調査日 平成25年9月5日，調査人数27人）

本単元の内容に関わる子どもの実態については，以下のとおりである。（数字は人数）

【調査1】説明的文章を読むための知識・技能【「問い」と「答え」の基本的な関係を理解している】
「問い」と「答え」の関係を理解している (22) 「問い」と「答え」の関係の理解が不十分である (5)
【調査2】説明的文章を読むための知識・技能【事柄の順序を考えながら内容の大体を読み取る】
内容の大体を読み取ることができる (21) 内容の大体を読み取ることが難しい (6)
【調査3】説明的文章を読むための知識・技能【文章の中の大事な言葉や文を書き抜く】
大事な言葉や文を書き抜くことができる (21) 大事な言葉や文を書き抜くことが難しい (6)

6 指導に当たって

(1) 「思考活動」を充実させる単元構想 ～単元の学習課題の設定の工夫～

本単元では，「B書くこと」の言語活動例ウとして，自動車クイズ大会を位置付けるようにする。そして，教材との出会いや単元の学習課題の設定の工夫に取り組むことで，自動車クイズ大会に向けて子どもが課題意識をもち続けることができるようにする。具体的には，「つかむ・見通す」過程において，既習単元の「いろいろなくちばし」で取り組んだ「これはなんのくちばしでしょう」クイズに取り組むことで，過去の学習経験を想起することができるようにする。その後，「じどう車くらべ」でも同じような活動に取り組むことができないか話し合い，「いろいろなくちばしを学習したときのように楽しいクイズをつくってみたい」という意欲をもつことができるようにする。また，『『いろいろなくちばし』の学習のように自動車クイズをつくるにはどうすればよいのか』などの子どもの問いを基に，解決すべき課題を交流し，解決の目的や方法を明確にすることで，「自動車の秘密を見つけてクイズをつくり，発表しよう。」という単元を貫く学習課題を設定することができるようにする。なお，単元の学習課題を設定する過程では，単元の学習の目的や方法を明確化し，学習課題の中に取り入れることで，子どもが主体的に学習に取り組み，単元の各過程の「思考活動」の充実を図ることができるようにする。

(2) 「思考活動」を充実させる他者との交流

学習過程 (時) ◎「思考活動」	「思考活動」を充実させる意図的・計画的な他者との交流の場の設定			
	材 料	視 点	交流形態	手 立 て
つかむ 見通す (1/12) ◎想起，比較	これまでの学習経験，新しい教材	自動車クイズを作るために，解決すべき内容	全 体	過去の説明文の学習の学びの足跡を想起させたり，新しい教材との出会いを工夫し比較させたりすることで，解決すべき課題を明確化することができるようにする。
調べる 深める (3/12～) ◎比較，分類，整理	自分や友達の考え	自動車の「しごと」と関係した「つくり」	ペ ア 全 体	答えの文の文末表現に注目させたり，挿絵と文章を照らし合わせながら読み取ったりすることで，「しごと」と「つくり」を整理することができるようにする。
まとめる 広げる (7/12～) ◎比較，修正	自分の説明文と友達の説明文	文章の内容，表記の仕方(文章構成，文末表現)	ペ ア 全 体	自動車の「しごと」と「つくり」を説明するための文章構成や文末表現を比較しながら読み合うことで，修正することができるようにする。
高める 味わう (11/12～) ◎比較，評価	自分の説明文と友達の説明文	文章の内容，表記の仕方(文章構成，文末表現)	ペ ア 全 体	評価の観点や文型を基に交流させることで，互いの表現のよさを称賛したり，自己の学びの高まりを味わうことができるようにする。

(3) 「思考活動」を充実させる評価資料の活用

評価資料を作成し，明らかになった基礎的・基本的な知識・技能について単元の「調べる・深める」過程から，子どもの表現例を基に見取することで，個に応じた指導に生かし，「思考活動」の充実を図ることができるようにする。

(4) 「思考活動」を充実させるICT活用

自動車クイズに書き表す対象となる自動車の絵や仕事の映像を電子黒板で提示することで，「しごと」と「つくり」を関係付けながら書き表すことができるようにする。また，書いた文を挿絵や映像と並べながら読み合うことで，正しい内容となっているか評価することができるようにする。

7 単元の学習課題を工夫して設定した指導計画（全12時間）（ ）は重点評価項目及び評価方法

過程 (時)	単元を貫く 言語活動	主な学習活動 ◎中心となる「思考活動」	子どもの 課題意識	教師の指導・評価 ◇ICT活用
つか む・ 見 通 す (2)		1 試しの自動車クイズに取り組み、感想を話し合う。 ◎想起, 比較 2 単元の学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 自動車の秘密を見つけてクイズをつくり、発表しよう。	クイズをつくるために、自動車のことを読んで調べよう。	○ 「わたしはなんの自動車でしょう」クイズに取り組むことで、本単元の学習意欲を高めることができるようにする。 ○ 単元の最後で自動車クイズ大会を行うために解決すべき内容を交流することで、解決の目的や方法を明確にし、単元の学習課題を設定することができるようにする。
調 べる・ 深 める (4)	「ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読む言語活動」	3 新出漢字やカタカナを学習し、全文を読み、教材文の内容をつかむ。 4 「問い」と「答え」の文の関係をつかみ、自動車について「しごと」と「つくり」で説明していることを理解する。 ◎比較, 分類・整理 5 教材文を読み、自動車の「しごと」と「つくり」を読み取る。 ◎比較, 関係付け ○ 乗用車とバス ○ トラック ○ クレーン車	自動車クイズにはどんなことを書けばいいか、教科書を読んで見付けよう。 自動車には、「しごと」と「つくり」があるんだな。これを使ってクイズをつくろう。	自動車クイズ大会に向けて、自動車の「しごと」や「つくり」を調べるために、教材文や絵本・図鑑を読もうとしている。【国語への関心・意欲・態度】 ○ 既習教材の書き出しと比較しながら読むことで、「問い」が2つあることや、2つの問いの内容を受けて、教材文が自動車の「しごと」と「つくり」について説明していることを理解することができるようにする。 ○ 文末表現に注意して各段落の「しごと」に赤、「つくり」に青のサイドラインを引き、分類・整理することで、各段落が同じ構成で説明されていることに気付くことができるようにする。 ○ 挿絵と文を照応させたり、「はたらき」や「つくり」を動作化させたりすることで、叙述と関係付けながら自動車の「しごと」と「つくり」の内容を理解することができるようにする。 ○ 3つの自動車の「つくり」を説明する文の文末表現を比較させることで、様々な書き方があることを理解することができるようにする。
ま と め る・ 広 げ る (4)	自動車クイズ大会	6 はしご車の「しごと」と「つくり」を見付け、秘密を説明する文の書き方を話し合う。 (本時7/12) ◎比較・関係付け 7 図鑑や映像、絵本を基に、好きな自動車の「つくり」や「しごと」を文に書き表す。◎関係付け 8 書いた文や絵を基に自動車クイズを作り、グループで交流する。 ◎比較, 修正	はしご車の「しごと」と「つくり」を見付けて、説明する文を書こう。 「しごと」と「つくり」をつなぐのがある文で分かるように書こう。	自動車の「しごと」と「つくり」の関係を考えながら内容の大体を読み、文章の中の大事な言葉や文を書き抜くことができる。【読むこと：読解, ワークシート】 ◇ 電子黒板に提示した挿絵や映像を基に自動車の「しごと」と「つくり」を考えることで、クイズにまとめることができるようにする。 ◇ 自動車の「しごと」と「つくり」について説明した文をペアで交流したり、電子黒板に掲示し全体で交流したりすることで、書く内容や書き表し方を理解することができるようにする。
高 め る・ 味 わ う (2)		9 自動車クイズ大会を開き、感想を交流する。 ◎比較, 評価 10 本単元の学習を振り返り、互いの感想を交流する。 ◎評価, 一般化	勉強したことをつかって他にもクイズをつくってみたい。	好きな自動車について説明する文章の簡単な構成を考え、つながりのある文で書くことができる。【書くこと：自動車の説明文, 発表】 片仮名で書く語を長音、拗音、促音に注意して、正しく読んだり、書いたりすることができる。【言語についての知識・理解：自動車の説明文】 ○ 評価の観点や文型を基に、説明文の内容や表記の仕方などよい点を交流することで、互いのよい点を見付けることができるようにする。 ○ ノートや作成した自動車クイズを振り返ることで、単元の学習を通して身に付けたことを味わい、その後の生活に生かそうとする意欲を高めることができるようにする。

8 本 時 (7/12)

(1) 目 標 はしご車の「しごと」や「つくり」を説明する文章の書き方を理解することができる。

(2) 「思考活動」を充実させる他者との交流 学習活動7 (*「思考活動」を充実させる意図的・計画的な交流の場の設定を中心に述べる。)

材 料 自分と友達の説明文 視 点 書かれた文章の内容 (自動車の「しごと」、「つくり」), 表記の仕方 (文章構成, 接続語, 文末表現)

手立て 互いのはしご車の「しごと」や「つくり」を書いた説明文を電子黒板に掲示して, 共通点や相違点を比較させる。形 態 ペア, 全体

(3) 展 開 〇は教師の言葉掛け 〻は予想される子どもの反応 〡は重点評価項目 ◎は「思考活動」 ☆はICT活用の留意点

過 程 (分)	主 な 学 習 活 動 と 予 想 さ れ る 子 ど も の 反 応	教 師 の 指 導 ・ 評 価
つ見 か通 むす (5)	1 前時の学習内容を振り返る。◎想起 2 本時の学習内容を確認める。 自動車クイズをするために, 今日 はどんなことをしますか。 3 学習課題と学習の進め方を確認する。 はしご車の秘密を書くとき, どのようなことに気を付ければよいのだろうか。	○ 単元の学習課題と, 前時までの学習内容を想起させることで, 本時の学習課題をもつことができるようにする。 ○ これまでの学習と本時を比較し, 本時は挿絵と「問い」の文しかないことに気付かせることで, 自分たちで自動車の秘密である「しごと」と「つくり」を見付けて書くことへの意識をもつことができるようにする。
調深 べめ る (15)	4 挿絵を基にはしご車の「しごと」を話し合う。◎比較, 関係付け はしご車はどんな「しごと」をする車ですか。 はしご車は, 火事の時, 高いところにいる人を助けたり, 火を消したりする仕事をします。 5 挿絵を基にはしご車は「しごと」をするために, どのような「つくり」になっているのか見付ける。◎比較, 関係付け はしご車は, 「しごと」のために, どんな「つくり」になっていますか。 長いはしががついているよ。 はしごの上にはかごが付いているよ。 車を支える丈夫な足が付いているよ。 はしごを動かす席があるよ。	○ 挿絵や一緒に「しごと」をする仲間の自動車の絵を見ることで, はしご車の「しごと」について理解することができるようにする。 ☆ 実際にはしご車の写真を電子黒板に提示したり, 模型や他の車の挿絵と比較したりすることで, 「つくり」を見付けることができるようにする。
ま広 げめ る (20)	6 はしご車の秘密を説明する文章を書く。◎分類・整理, 関係付け 7 はしご車の秘密を説明する文章を見せ合い, 共通点や相違点を基に, よりよい書き方について話し合う。◎比較, 評価 はしご車の秘密を教えるお話には何を書かないといけませんか。 はしご車の秘密を教えるお話には, 「しごと」「つくり」を書かないといけません。 「そのために」という言葉を使っています。	○ ワークシートの挿絵に印を書き込むことではしご車の「つくり」を整理することができるようにする。 ○ 教室に掲示してあるトラック, クレーン車の教材文を振り返ることで, はしご車の秘密を説明する文章の構成や, 文末表現などを考えて, 書くことができるようにする。
高味 めわ るう (5)	8 本時の学習のまとめをする。 秘密を書くときは, 『しごと』と『つくり』を書く, 「つなぐ言葉を使って書く」, 「最後の言葉に気を付けて書く」 9 次時の学習への見通しをもつ。	☆ 数人のはしご車の秘密を書いた説明文を電子黒板に掲示して, 共通点や相違点を比較することで, 説明文に書く内容や表記の仕方を理解することができるようにする。 ○ 「そのために」の役割を考えることで, つながりのある文とはどういった文なのか理解することができるようにする。 ◆ はしご車の「しごと」と「つくり」を説明する文章の書き方を理解することができる。【書く能力: 説明文, 発表】 ○ はしご車の秘密を説明する文章をクイズ形式にすることで, 次時の活動の見通しをもつことができるようにする。

第1学年国語科 「じどう車くらべ」における評価資料（全12時間）				
重点評価項目				
乗り物の「しごと」と「つくり」の関係を考えながら、内容の大体を読み、文章の中の大事な言葉や文を書き抜いたり、簡単な構成を考え、つながりのある文を書いたりすることができる。				
評価の観点				※学習活動（時）
B-イ	構成に関する指導事項	教材文や挿絵などを参考にして、簡単な構成を考え、好きな自動車を説明する文を書くことができる。		7（8／12）～
B-ウ	記述に関する指導事項	説明の順序に沿いながら、文と文の続き方を考えてつながりのある文を書くことができる。		7（8／12）～
C-イ	説明的文章の解釈	自動車の「しごと」と「つくり」の関係を考えながら、内容の大体を読むことができる。		4（3／12）～
C-エ	自分の考えの形成及び交流	文章の中の大事な言葉や文を書き抜くことができる。		5（4／12）～
評価方法：ワークシート、ノート、発言、自動車クイズの文章				
十分満足できる（A）		おおむね満足できる（B）		
B-イ	複数の文で「つくり」を書いて説明することができる。	B-イ	「しごと」「つくり」の簡単な構成で、好きな自動車について説明する文を書くことができる。	6（7／12）～
B-ウ	「そのために」以外のことばをつかって、つながりのある文を書くことができる。	B-ウ	「しごと」と「つくり」について、「そのために」を使って、つながりのある文で書くことができる。	6（7／12）～
C-イ	挿絵と照応しながら読むことができる。	C-イ	自動車の「しごと」と「つくり」の関係を考えながら、内容の大体を読むことができる。	4（3／12）～
C-エ	映像や生活経験から、「しごと」や「つくり」を書いている。	C-エ	教科書に書かれた自動車の「しごと」や「つくり」の言葉や文を正確に書き抜くことができる。	5（4／12）～
おおむね満足できる（B）の表現（記述）例				
書くことの能力を生かした表現例			読むことの能力を生かした表現例	
救急車の「しごと」や「つくり」 （しごと） きゆうきゆう車は、けがをした人や、びょうきの人を、びょういんにはこぶしごとをしています。 （つなぎ言葉） そのために、 （つくり） うんでんせきのうしろには、人をねかせることができるようになっていきます。			自分 自分が調べた自動車の「しごと」や「つくり」を簡単な構成を考えて正しい言葉で書いた表現例 （しごと） おもいものをつり上げる （つくり） じょうぶなうで しっかりとしたあし クレーン車の「しごと」や「つくり」 教科書の言葉や文を正確に書き抜いて、「しごと」や「つくり」を書いた表現例	
評価を生かした指導				
〈Bの学習状況の子どもに対して〉 B-ウ 挿絵と書いた文を関係付けることで、新しい「つくり」を書くことができるようにする。		〈Cの学習状況の子どもに対して〉 B-イ 教室に掲示された学びの足跡を参考にしながらまとめることで、説明する文を正しく書くことができるようにする。		
C-イ 「しごと」や「つくり」がなぜそうなっているのか挿絵や構成を基に説明することができるようにする。		C-イ 文末表現や挿絵に注目させながら「しごと」と「つくり」にサイドラインを引かせることで、「しごと」と「つくり」を読み取ることができるようにする。 C-エ 重要な部分を空白にしたワークシートに書かせることで、「しごと」と「つくり」を読み取ることができるようにする。		

※ 指導案「7 単元の学習課題を工夫して設定した指導計画」の学習活動